



## 路傍の石に込められた祈り

### ●山梨県の道祖神

山梨県内を歩いていると、自然石や石像が祀られているのによく見かけます。これらの多くは道祖神と呼ばれるものです。サヘノカミ(塞の神)ともいい、村境に位置し、疫病や悪霊などを防ぐ(塞ぐ)神と考えられています。山梨県全体に存在し、その密度は長野県と並び全国で最も高いといわれています。

様々な姿の道祖神が分布しており、代表的なものとしては、丸石道祖神、双体道祖神が挙げられます。丸石道祖神は、丸い自然石を祀る山梨県独特の道祖神です。特に甲府盆地の東北部(甲州市、山梨市、笛吹市など)に多く分布している他、山梨県北西部(北杜市、韮崎市など)をはじめとして、県内各地で見られます。秩父往還周辺は特に多く安置されており、歩いていると少しずつ姿が異なる丸石道祖神にあちこちで出会うことができます。双体神道祖神は二つ



装飾的な石祠(写真正面)と陰陽石(写真右下) 谷戸宮下の道祖神(北杜市提供)

の人物が彫られた像で、長野県・山梨県で最も多く見られます。県内各地に存在しますが、甲府盆地の平坦部にはほとんどありません。例えば、富士道の身祿堂(都留市)には、二人の人物が抱き合うような像が祀られています。

石や木の祠に道祖神を祀る例が多いのも、山梨県の道祖神の特徴。特に山梨県北西部には、厚みのある屋根に彫刻を施した立派な石祠が多く見られ、神社のような派手かつ繊細な彫刻が施された石祠はこの地域特有のもので、他にも、棒道の「八達衛神(やちまた)」(北杜市)のような文字が刻まれた碑や石棒、男根・女陰の形をした自然石(陰陽石)を道祖神としたものが各地にあり、道祖神のバリエーションの多さ、数、密集する光景は山梨ならではの風景です。

小正月にはオヤマヤオコヤと呼ばれる大型の飾り物を作って道祖神祭りをを行うなど、生きた道祖神信仰がいまも続いています。地域の人々に大切にされる道祖神たちは、山梨の道の魅力の一つです。

### ●棒道の石仏

棒道の谷戸城周辺から火の見櫓跡周辺までの約7km程度の区間には、沿道に石仏が立ち並んでいます。行き交う旅人や商人の身を案じ、道標として地域の人々が設置したものです。

これらの石仏は西国三十三所・坂東三十三所の札所になぞらえた観音像。江戸時代に全国で流行した、観音霊場を模したもの(写し霊場)で、巡拝すると札所巡りと同等の功德が積めると考えられていました。39体の石仏が、地域の人々に大切に守られながら現存しています。



坂東一番 十一面観音立像 (北杜市提供)



西国二十九番 馬頭観音坐像 (北杜市提供)

## 甲斐のサムライ文化と歴史の道

山梨は、多くのサムライたち、すなわち武芸を生業とする者たちが活躍した地でもあります。中でも、山梨の英雄として最もよく知られる武田信玄(たけだしんげん、1521年—1573年)の足跡をたどりながら歴史に触れ、学ぶことは、山梨観光ならではの醍醐味だといえるでしょう。そして、この歴史に名を残した武将のルーツは、「甲斐源氏(かいげんじ)」と呼ばれるサムライたちにあります。平安時代末期から戦国時代まで、甲斐国各地、ひいては全国で活躍した甲斐源氏と、その流れを汲む武田氏は、日本全体の歴史に様々なものをもたらしました。

彼らが現代に残したものは、例えば城跡や居館跡のような武将然とした施設だけでなく、寺社などの宗教施設、そして弓馬術や礼法にも及びます。甲斐国に足跡を残したサムライたちは、ただ戦や政争に明け暮れていたのではなく、現代まで残る歴史資源の多くに関わり、それらを次の世代へとつなぐ庇護者、継承者となりました。その動機は、必ずしも純粋なものばかりではなかったかもしれませんが、彼らが当時最先端の教義・教養の実践者であったことは、想像に難くありません。

甲斐源氏・武田氏ゆかりの寺社、文化財、居館や城の痕跡、地割や地名など、各地に点在する歴史資源をつなぐ一筋の糸が「道」です。歴史という時間の縦糸に、天地四方へと伸びる空間の横糸を織り込めば、時代を超えて生き生きと躍動するサムライ文化の金紗が立ち現れるはずで

さて、甲斐源氏・武田氏と関わりを持ってきた道は時代によって異なります。例えば今回の事業で取り上げた5道の中では、やがて棒道ができる八ヶ岳山麓が甲斐源氏の始まりと関わりが深く、秩父往還やみのぶ道は鎌倉時代以降のサムライ文化の舞台です。しかし、点を見るだけでは、甲斐源氏・武田氏の“ストーリー(物語)”の断片しか知ることができません。甲斐源氏たちは、平安時代末期(12世紀末)から戦国時代(15世紀末—16世紀頃)にかけて、甲府盆地の周縁から中心へと渦巻くように進出し、甲斐国を席卷していきます。そのダイナミックな流れの中に、彼らの痕跡を探しながら進んでいくことで、より楽しさが深まります。

甲斐の武士について解説した常設展示 (山梨県立博物館)

甲斐源氏の始まりから源平合戦での活躍、武田三代の歴史までの過程を豪族・三枝氏の事跡と合わせて紹介しています。系図や年表、当時の勢力図を掲載している他、甲斐源氏に関わると考えられている銅製の経筒、武田信玄に関する文書などを展示しており、実物を見ながら学びを深めることができます。

